

突撃訪問!

研究農場／トヨタネ

さらなる農家の支援を

事務所棟 全面リニューアル

東海日日新聞社運営の「東三河データファイル」に参画するトヨタネ(川西裕康社長)はこのほど、豊橋市高田町にある研究農場の事務所棟を建て替えた。本面では、新しく生まれ変わった事務所棟を紹介しながら、同社の研究農場の特徴などについて紹介する。

(船井利恵)



事務所棟外観



研究農場内

木の香あふれるバリアフリー空間

農場を案内する栽培支援部の水谷雅祥部長は説明した。

新しい事務所棟は木造2階建て、延べ床面積445平方メートル。地元材を中心に東三河に適した家づくりをするイトコー(伊藤博昭社長)が施工した。緑と茶色の外観からは想像もつかないほど、屋内は無垢の木の香りが漂う。2階は60人程度収容可能な研修室が広がる。

農場を案内する栽培支援部の水谷雅祥部長は説明した。新しい事務所棟は木造2階建て、延べ床面積445平方メートル。地元材を中心に東三河に適した家づくりをするイトコー(伊藤博昭社長)が施工した。緑と茶色の外観からは想像もつかないほど、屋内は無垢の木の香りが漂う。2階は60人程度収容可能な研修室が広がる。

気分になるが、靴は脱がずに土足のまま入るのが同所の特長。木造の香りが漂う。2階は60人程度収容可能な研修室が広がる。



社には掃除の文化が根付いており、毎朝、社員全員で隅々まで「すっきり快適になりましょう」と同部の大



室智世さん(写真②)と内山真奈美さん(写真③)もにっこり笑う。新しい事務所棟は社員にとってもより働きやすい場所になった。水谷さんは「自分たちが提案した品種が再び当農場を訪れた」との前の苗は良かったよ」と言われるのが何よりの励み。今後も視察、見学などを積極的に受け入れていきながら少しでも農家の皆さんのサポートをしていきたい」と話した。